

社会基盤メンテナンスエキスパート養成

実施機関：岐阜大学（総括責任者：森 秀樹）

実施期間：平成 20～24 年度

プロジェクトの概要

岐阜県は、面積の 8 割が山間部であり、木曾三川に代表される大河も多数横切っている急峻な地形のため自然災害が多発する地域の一つとして知られている。それら自然災害による社会資本の傷みの補修だけでなく、既存社会資本の老朽化の整備・維持管理を支えるべき県内建設業界においては、企業内エンジニア不足などの疲弊が大きな問題であり、その解決には、行政と業界双方の技術力を向上させる取組が不可欠な課題である。

本プロジェクトは、「安全・安心な県土の保全」と「地域の活性化」を目的とし、「社会資本の合理的な整備・維持管理を計画できる人材」や、県内建設業界の望む「きめ細かい点検と高度な維持補修技術から県土の保全を実現する人材」を育成を行う。具体的には、岐阜大学に「社会資本アセットマネジメント技術研究センター」を設立し、「社会基盤メンテナンスエキスパート養成ユニット」を開設する。養成ユニットでは、短期集中カリキュラムにおいて、岐阜県及び県内建設業界それぞれの組織の技術者が、所定の科目を履修することにより、共通の高度な知識を持った総合技術者（社会基盤メンテナンスエキスパート：ME）を養成する。社会資本の整備・維持管理を計画・設計・施工/実施できる総合技術者（ME）を 5 年間で 100 名輩出する。行政（発注者）と業界（受注者）の双方が総合的な技術力を保有することで、合理的な発注計画、高品質な整備を通じた受注が可能となり、「安全・安心な県土の保全」と「地域の活性化」を図る。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性が見通し	中間評価の反映
A	s	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

社会基盤メンテナンスエキスパート (ME) という新たな職種の人材養成に成功している。また、現場ニーズを調査した上でのカリキュラムの設定や ME 同士間で社会基盤メンテナンスデータの共有化が進んでいる点も評価できる。文部科学省の「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業に採択されたことから、今後は、全国モデルとしての波及効果を期待する。

- ・ **目標達成度**：所期の目標人数を 170% と大きく超えて養成人材を輩出していること、修了者の総合技術者 (ME) としてトンネル一斉点検等の活動実績やメンテナンスサポーター講習会講師等の地域のニーズに貢献していることなどは高く評価できる。また、長崎県等他地域の類似の取組に対しても正の波及効果をもたらしていることも評価できる。
- ・ **人材養成手法の妥当性**：受講要件等を設けての受講生選抜、著名な専門家によるレベルの高

い講義、受講者アンケートを講義毎に実施したきめの細かいカリキュラムの改良、ME 認定者に道路管理支援士の受験資格が与えられることなどから、合理的な養成手法であると評価できる。

・**実施体制・自治体等との連携**：人材養成ユニットの運営・実施が各段階で大学、県、地域企業の実質的な連携共同の下で効果的に進められており、特に、ME ユニット運営協議会のメンバーは幅広い分野で構成されていることは評価できる。また ME 資格取得後のインセンティブとして岐阜県の建設工事入札制度の総合評価の加点項目として、ME が技術士と同等と認定された点も評価できる。

・**人材養成ユニットの有効性**：所属を異にする ME が効果的に連携する組織として「ME の会」が発足し関係実務に貢献しつつあること、県事業である社会基盤メンテナンスサポーター制度との連携がみられること、受注者側、発注者側の ME の連携で社会基盤メンテナンス業務の効率化が実現していること、平成 24 年度末で 9 名の ME が道路管理支援士に認定されていることなど、本養成ユニットが有効であるものと評価できる。今後は、養成された人材を効果的に活用して社会基盤のメンテナンスを実現する行政の一層の体制整備を期待する。

・**継続性・発展性の見通し**：岐阜大学の支援や岐阜県からの要望・支援を受け、履修証明制度による履修証明プログラムとして平成 25 年度から継続実施が決定していることは評価できる。今後は、長崎大学のプロジェクトと連携を取りながら、修了者のネットワークや活動を活発化させて地域再生を実現することを期待する。

・**中間評価の反映**：コンプライアンスについての教育や中小企業への配慮など、中間評価の指摘に対して適切に対応していると評価できる。